

米中対立の激化と日本

日本は米国との強い同盟関係は維持しつつ、地域の枠組みの中での協力関係を通して、中国を国際ルールにしっかりと関与させていくべきだ。

株式会社日本総合研究所 国際戦略研究所 理事長
元 外務審議官 田中 均

深い経済相互依存関係の中で

米中の対立は今後長く国際関係を支配する最も重要な要因であるし、短期的にも対立は激化しよう。急速に台頭する国が既存の大国と衝突するのは歴史上珍しいことではないが、米中の対立に内在するいくつかの特性も見逃してはならない。

第1に、自由民主主義と共産主義という異なる価値と統治制度をもつ国の対立である点は冷戦時と変わらない。しかし米国の場合、長く続いたイラク戦争やトランプ大統領の下での多国間主義からの離脱に伴い、その権威と国際的指導力は低下している。一方、中国は国家資本主義の下で急速な成長を実現し、「一帯一路」構想などを通じ国際的影響力を飛躍的に拡大した。今や、多くの発展途上国・新興国にとって、中国モデルが魅力的なものと映り、米国の道義的優位も薄れた。もはや国際社会で米国の下で対中連携をつくるといったことにはなり難くなった。

第2には米ソ冷戦とは異なり、米中対立はグローバル化が生んだ深い経済相互依存関係の中で起こっていることである。すなわち、双方の対立は激化しても経済関係を壊すことには大きな躊躇^{ちゅうちよ}がある。

第3に軍事的には核戦力を含め米国が圧倒的に優位であり、冷戦時代にあったような双方の

大量の戦略核兵器による相互抑止の世界にはないが、それでも核抑止力は有効に働いており、米中間で大規模な軍事衝突が起きることは想定されていないことである。

米国が恐れる「中国の夢」

では、米中の対立は今後どのような様相を呈することになるのか。今日、米国は経済・軍事的にも国の豊かさの面でも中国を圧倒している。その米国が恐れるのは、習近平中国国家主席が語る「中国の夢」、すなわち、中華人民共和国成立100周年に当たる2049年に中国が米国を凌駕^{りょうが}する社会主義大国として覇権をとることである。おそらく米国は3つの面で中国に圧力をかけ、押し返そうとするのだろうし、摩擦が激化する。

第1は、ハイテク分野である。5Gにおけるファーウェイに象徴されるように、米国は中国企業のハイテク分野での活動を排除しようとするだろう。ハイテクは軍事に通じる。一時はファーウェイの採用を決めていた欧州諸国も英国は2027年まで、フランスは28年までに停止することを決めたとされる。米中間では引き続き一般的な貿易投資関係は維持されていくだろうが、ハイテク分野については中国を市場から排除しようという動きが強まるだろう。

第2にはサイバーや人的交流を通じた中国の知的財産権侵害の動きを封じることだ。米国は